

市民の合意形成を無視、許せない「史跡指定計画」

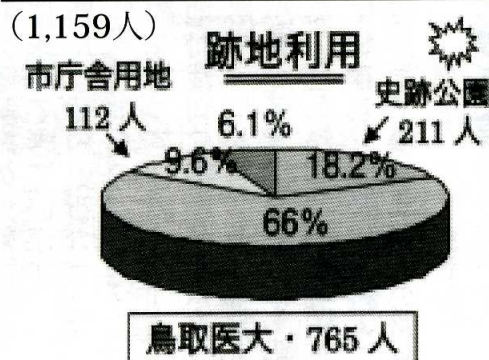
遺構の試掘調査より、民有地三ヶ所の土地買い上げ最優先の事業化



米子・湊山球場の史跡公園化
市民有志が
市と議会に
住民投票も視野

凍結求め要望書

市民の声・市民アンケート



市民有志の「有識者会議」は、史跡指定計画の凍結と中止を市長、議長に要望した。湊山球場の土地利用について、市民の合意形成は諮られていない。市長は、市民の合意形成を無視し、平成27年度予算に事業調査費を計上した。

市長の、しなければならぬ事務で無い事業を、市民の意見を退け、強行する市長の姿勢に、市民の怒りと批判が渦巻いている。

説明のできない「史跡公園化計画」

事業費未定

湊山球場地の活用は「最善の事業手法」と強弁する市長の「史跡公園化計画」は、全体事業費の概要も決めず、事業調査費の予算編成という前代未聞の有様です。

しかも、国への「史跡指定追加」を、今年夏ごろと予定し、民有地三ヶ所の買い上げを最優先にしたスケジュールを奇策しています。

国史跡指定の「申請」を急ぐ背景は、湊山球場地を指定文化財とし、文化庁の指導下に移し、市民の批判を退けるためです。市民との合意形成を無視した市長の市政運営は、市民参加どころか専制政治にそっくりです。地方紙に報道された「絵図」を質すと、「桜の木を、植える」と決めたものではない」と言う。市民を翻弄する無計画情報です。



「桜と決めていない」の絵図

鳥取大学医学部と湊山球場



中心市街地に残された最後の巨大な空間の宝
「まち」「ひと」「しごと」の地方創生事業に
鳥取大医学部と連携のまちづくりをめざそう！

(2015/3/14 日本海新聞掲載)

地方創生計画と 先端医療都市

市は、「これまで市と鳥大病院との連携が不十分であった」反省から、「先端医療創造都市よなご」構想を立ち上げ、鳥大病院との連携を深めるとしています。

この背景に、政府の地方創生推進事業の国立大学機能を活かす地域活性化指針があります。鳥大医学部のポテンシャルを地域の活性化に活かす為に、政府のいう自治体の財政支援と土地の無償提供が前提となります。

と「づくりの連携に、鳥大医学部は米子市の大きな「宝」です。

市民「有識者」の意見に、「鳥取への移転問題にも耐えてきた。付属病院の存在は、その経済的価値、文化的学術的価値においても今や欠くべからざるもの」と評価されています。

鳥大医学部は、湊山球場地に隣接し、外来者の駐車場も不足状態、キャンパスも狭隘です。

市は、まちの創生に「先端医療創造都市よなご」を、地方創生計画にどのように描くのか。市長と市議会に、その説明責任が重く押し掛かっています。

鳥取西高を例 建物は、建てられない 事実を曲げる抗弁

市長は、「史跡指定地外であっても、建物は建てられない」と、鳥取西高体育館の建設中止を例に、湊山球場地も建物が建てられないと反論しています。

鳥取西高の体育館建設中止は、鳥取市が建設用地を試掘調査した結果、貴重な埋蔵文化財が在った為に、市が文化財保護地に決定した背景があります。

湊山球場地は、包蔵地域であっても、試掘調査をしていません。湊山球場地の「遺構」の有・無は、「区域が、文化財的価値」と「遺構」の言及を避けています。

米子の、「まち」「ひと」「し